

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鹿島市立能古見小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	1 学力向上 基幹調査から分析した児童が身に付けている分野、不十分な分野を再度確認し、次年度につなげ、高めていく方法を模索する必要がある。 2 人権教育 心の教育は学力向上と常にセットにあると考える。児童の育った心を大切に、それを自信につなげられるよう、対策をとっていく必要がある。 3 コミュニティスクールとして、地域との連携を強化し、地域の物的・人的財産の発掘を行い、体験活動の活性化につなげる。
------------------	--

2 学校教育目標	「かしこく、正しく、たくましく」共に伸びゆく能古見っ子の育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	能古見っ子の「学力向上」と「人権意識の向上」
------------	------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目

重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師90%以上	・研修の時間を定期的に設け、取組の共通理解と共通実践に取り組む。 ・家庭学習への確実な取組への強化を図る。	B	・算数アンケートに関する成果指標の達成した教師は100%であり、確実に積み重ねができている。 ・タブレットドリルについては少しずつ有効活用ができているが、まだ研鑽を深める必要がある。	B	・常日頃の授業を見ていないので、全体像は見えないが、授業参観のみで判断すれば、きめ細かい授業でわかりやすい。 ・教科指導計画が達成されて指導の充実ができている。タブレットドリルと教科書の使い分けを工夫して学力を伸ばす工夫を願うところだ。
	○特に算数科の授業において、深い学びにつながるような授業づくり	○算数アンケートで「自分の考えを書こうとしている」「分かったことを伝えることができる」児童85%以上 ○学年末たしかめテストで算数科の平均正答率80%以上	・アタックタイムで全員が自分の考えをかけるように指導の工夫をする。 ・充実した学び合いになるように日ごろから自信をもって自分の考えが言えるような学級づくりに努める。	A	・算数アンケートによると、図・式・言葉などを使って自分の考えをいつも書いている、だいたい書いている児童は6月では、90.8%、11月では、97.4%であり、アタックタイムでの学び合い活動の工夫が成果として表れている。 ・分かったことを伝えることができる、だいたいできるは、6月は84.2%、11月では、90.1%であり、表現する場を随時、設けてきたことが効果的であった。	A	・手をあげて発表できること、自分の意見・考えを持たせることはすごいことだと思います。 ・算数アンケートの結果を生かした指導で指導法の改善が見られる。児童が学ぶ喜びを感じる授業実践をお願いしたい。 ・学び合いの活動は、とてもよいことだと思います。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●学級及び個人の「自分のよいところがある」と思う児童80%以上	・各学年で心のめあてを設定し、毎月振り返る。 ・平和学習や人権集会等の実施 ・道徳科の授業充実を図り、人権意識の向上につなげる ・保護者や地域と連携したふるさと体験活動の実施 ・感謝の気持ちを伝える取り組み（暑中見舞いはがきなど）	B	・アンケートから「自分のよいところがある」と答えた児童は71.4%となり前期より増加したが、目標達成には至らなかった。 ・人権集会を実施したり、各学級で人権に関する授業を行ったりして、人権意識の向上を図った。 ・しいたけ菌打ち体験、基八温音頭の指導に地域の方に来ていただき、ふるさと体験活動の実施をした。 ・各学年でお世話になった方へ感謝の気持ちを伝えるためにお礼の手紙を書く活動を行った。	B	・伝承芸能の後継者が少ないので、地域芸能の視察・見学を実施してほしい。 ・人を労り助けるという人権に関する授業は続けていきたいと思います。時々児童から手紙をいただきますが、手紙のキャッチボールができて嬉しいです。 ・道徳が教科となり、指導の充実が求められている。生きる力を育むために児童の心に寄り添い、積極的なアプローチを図った指導を思うところです。教科書以外の資料も活用して道徳の実践力育てていきたい。 ・自己肯定感を高める実践をこれからも継続してほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケート等で、困っているときに相談できる相手がいると答えた児童80%以上	・心のアンケート実施（年6回） ・学校生活（いじめ）アンケートの実施（年2回） ・Q-Uアンケートの実施（年2回） ・アンケートをもとに個別的教育相談を実施 ・教育相談習慣（QUアンケートの後に行う）	A	・困っているときに相談する人がいると答えた児童は87%と増え、安心して学校生活を送ることができるようになってきている。 ・今後の課題として、教育相談週間を設けて全児童と話し、児童理解を図る必要がある。	A	・相談できる人が周囲にいることは、安心して生きていけると思います。そして登校拒否等もなくなると思います。 ・いじめアンケートの実施や日頃の生活態度の観察から児童の悩みや心の変化を的確には把握した活動ができています。今後も教育相談の活動を通して、児童の気持ちに寄り添い、家庭との連携を図りながら進められるよう願うところです。 ・相談する人、場所を多く作るのは良いことだと思います。いじめについては、いじめた方のカウンセリングが必要だと思います。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上	・年1回の学校生活アンケートの実施 ・職員間で共通理解を図り、すべての教育活動で頑張っている児童に対して褒めることを意図的にやっている。	A	・学校生活アンケートでは、95%の児童が「先生は、よく話を聞いてくれる」と肯定的に回答している。今後も児童の活動の過程をしっかりと見取り、児童の自己肯定感を高めていきたい。	A	・先生は誰よりも自分の味方ということで特におとなしい児童は安心して嬉しくてたまらないと思います。 児童の長所を把握し、子どもの話に耳を傾けて接する教職員の姿勢がとても良いです。日常の何気ない会話にも心配りができています。 ・先生方は、よく児童のことを見ているなと感心します。
	◎志を立て、自ら目標に向かって努力する子供の育成	◎志を持ち、自分の目標に向かって努力していると回答する児童75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・定期的に学習や学校生活の振り返りを行い、児童一人ひとりの目標の確認とステップアップを図る。 ・すべての教育活動で意図的に頑張る児童を評価する取組を行う。	A	・2月の学校生活アンケートでは、91.6%の児童が普段から目標を立てて生活し、将来の夢を持っていると答えている。様々な教育活動を通して、めあてを持たせ、そのめあてを達成できた喜びを感じさせ、評価する活動を続けていきたい。 ・12月には、地域の企業の方に、2月には、元オリンピック選手に話をしてもらい、目標に向かって頑張ることの大切さを感じさせることができた。	A	・将来に憧れを持って生活できることは、行き当たりばったりの生活より数段早く成長できると思います。 ・目標を持ち、明るく元気に学校生活を過ごしている児童の表情がいきいきしています。新聞に掲載されている6年生の「みんなの夢」を読んで児童の将来への希望や実現の意欲を感じた。 ・目標・問題解決に向かうための考え方をしっかりと教えてくださっていると、思っています。学校がきちんと教えていただいているので、子供にやりたいことはコロコロ変わっていいよ変わった時に対応できるように勉強しようと話しています。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・昼休みは全校児童が外遊びをするように、遊び道具を充実させたり、放送で呼びかけたりする。（年間を通して） ・健康に関する情報を「保健便り」で伝え、日々の健康チェックや「歯みがきカレンダー」等の記入を通して基本的健康活動の習慣化を図る。 ・好き嫌いをせず3食食べるように、栄養教諭との授業や、食育月間、給食週間を利用して、食の大切さを呼びかける。	A	・年間を通して給食時間の放送、学級で外遊びを推奨した。後期は、日照時間の減少、気温低下、感染症の流行もあり外遊びの時間が87.4%に減少した。しかし、めあての60%以上は達成することができた。 ・各クラス栄養教諭による食育授業を実施し、バランスの良い食事について伝えることができた。また、給食週間には、委員会による昼の放送や児童集会などで食の大切さを呼びかけ、「毎日朝ご飯を食べてきている」と答えた児童は98.7%だった。	A	・朝食抜きがまだ少しいるけど、気がかりなのは、家庭的なことだったら可哀そうです。でも数値は、高い。 ・朝ご飯を食べて登校する児童が98.7%と高く食育に関する指導が行き届いていると感じる。日頃の手洗い・うがいの習慣が身につき衛生への関心が高い。 ・遊びでいろいろな発想が出るのでいいと思います。食事については、保護者に伝わればと思います。できれば食べ物が体内に入った後の作用などもわかればもっと良いです。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上					
	○体育学習の充実（スポーツチャレンジ・体育学習の充実）	○「体育の授業において指導技術が向上した」教職員が80%以上	・外部講師を招聘し、ともに授業に取り組むことで学習の充実を図る。 ・全学級がスポーツチャレンジに取り組み、記録をとり、平均や最高得点等を紹介する。	A	・水泳や器械運動など、外部講師を招聘し、特に若手教員の体育技術向上に取り組んだ。全校で単元の時期をそろえて授業をしたことで、職員同士が指導方法を共有することができ、「体育の授業技術が向上した」と答えた教職員は100%だった。 ・後期はたてわり班や、クラスで8の字とびに挑戦し、他校の記録や自分たちの結果を掲示したことで全校で積極的に取り組むことができた。	A	・先生方自ら積極的に苦手意識を払拭する取り組みはすごいと思いました。 ・外部講師による体育の実技指導は、若手教員のよき指導の模範となり、自身の指導向上に役立てたと100%の回答は素晴らしい。 ・運動ができない子に対して手だてを取り、ある程度できるようにすることができ先生方に感謝しています。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。（月45時間、年間360時間を超えない）	・ICTを活用した業務の効率化 ・職員間の情報の共有化 ・定時退勤日の徹底	B	・後期後半も超過勤務を月平均45時間以内を守ることについては、多くの職員が努力している。年間を通して業務の改善や工夫は十分とは言えないので教育の成果を目指して継続して取り組んでいきたい。	B	・教職員の働き方改革の成果は、教職員一丸となって取り組まれた結果です。これからも、業務の効率化をICTの活用等を駆使して超過勤務の縮小に努力をしていただきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実 ○地域との連携	○「個に応じたきめ細やかな指導」「交流学习の充実」 ○「地域人材を活用した取り組みの充実」	○合理的配慮し、特別支援教育に関する専門性が向上した教員が90%以上 ○「学校は、保護者や地域の方と協力して子どもの指導や行事開催に取り組んでいる」と回答した割合80%以上	・巡回相談を必要に応じて行い、実態にあった指導ができるようにする。 ・職員連絡会や職員研修で定期的に児童についての共通理解を図る。 ・学校運営協議会、関係機関と連携を図り、地域人材リストを作成し、教育課程の中に位置づける。	A	・機会をとらえ児童の情報交換を行い、個々の実態に応じた支援ができた。また、児童についての共通理解ができ、チームで支援にあたることができた。 ・後期も前期同様地域の方の協力を得ながら、充実した教育活動をおこなうことができた。	A	・個に応じたきめ細やかな指導が必要な児童に対して、共通理解が図られて特別支援教育が充実している。コミュニティスクールが発足して2年が経ちますが、その成果が見えてきている。今後も学校・家庭・地域が連携を深め、地域人材の活用を推進したい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・コミュニティ・スクールとして2年目を迎え、地域の人・もの・こととつながりを持つことで学習に広がりや深まりができ、今年度も地域を生かした教育をより充実させることができた。 ・「学力向上」については、ICT利活用の面で課題も出てきており、まだ十分とは言えないが、継続してきたことは、実を結び始めている。今後も基礎基本の習得に向け、継続と徹底が必要である。 ・「心の教育」については、志を持ち、目標に向かって努力する態度や自己肯定感を高める取組を継続して行っていくたい。
--------------------	---